

# 鹿児島県における平成30年産さとうきびの生産状況および実績について

公益社団法人 鹿児島県糖業振興協会

### 【要約】

鹿児島県の平成30年産さとうきびは、9月末の台風などの影響を受けたことから、生産量は45万2623トン（前年比86%）、収穫面積は9436ヘクタール（同96%）、10アール当たりの収量は4797キログラム（同90%）となった。

また、品質においては、買入糖度は記録的な低糖度となった前年を上回るものの、県平均では13.08度にとどまった。

## 1. さとうきびの位置付け

さとうきびは、他作物に比べて台風や干ばつに強く、鹿児島県南西諸島の約7割の農家が生産している基幹作物であり、製糖業などの関連産業も含め、地域経済に果たす役割は極めて重要である。

本県のさとうきびの平成29年農業産出額は約107億円（前年比75%）で、耕種部門の第6位となっている（1位：米、2位：茶〈生葉〉、3位：さつまいも、4位：ばれいしょ、5位：荒茶、6位：さとうきび）。

鹿児島県では、平成18年6月に27年産を目標年とする「鹿児島県さとうきび増産計画」（以下「増産計画」という）を策定し、生産者、製糖会社、関係機関・団体と連携しながら、栽培面積の確保や単収向上などの取り組みを進めてきた。

しかし、23年産以降、台風などの気象災害や病害虫被害などにより、増産計画で定めた目標を達成できない状況が続き、早期の生産回復・増産に向けた取り組みが課題となっていたことから、島ごとに、これまでの計画達成状況を検証・評価するとともに、

現状と課題およびその解決方策などを整理し、27年12月に37年産を目標年とする計画として改定し、諸般の施策を推進しているところである。

表1 さとうきび栽培農家戸数など（平成30年産）

地域	農家戸数 (戸)	さとうきび 栽培農家戸数 (戸)	さとうきび 栽培農家割合 (%)	1戸当たり 収穫面積 (a)
種子島	3,270	1,590	48.6	137.5
奄美	7,434	5,632	75.8	128.7
県計	10,704	7,222	67.5	130.7

資料：農家戸数は農林業センサス、農家戸数以外は鹿児島県調べ

## 2. 平成30年産さとうきびの生育状況

### (1) 種子島地域

#### ア 生育初期～分けつ

生育初期は、3月の気温が高めで経過したことから、発芽は比較的順調であった。生育は少し遅れ気味で7月以降は順調に生育した。

## イ 伸長期

伸長期前半の仮茎長は平年を上回って推移した。伸長期後半は平年並み～やや上回る状況で推移した。

## ウ 登熟期

9月後半の台風被害などの影響により、生育は停滞し、登熟は平年を下回って推移した。

## (2) 奄美地域

### ア 生育初期～分けつ

3月中旬から4月中旬にかけて降水量が平年を下回り、生育の遅れが懸念されたが、4月下旬以降は適度な降雨や平均気温の上昇により、比較的順調に生育した。

## イ 伸長期

生育状況は適宜、降雨に恵まれたことで順調であった。

## ウ 登熟期

9月後半の台風被害などの影響により、生育は大きく停滞し、登熟も厳しい状況となった。

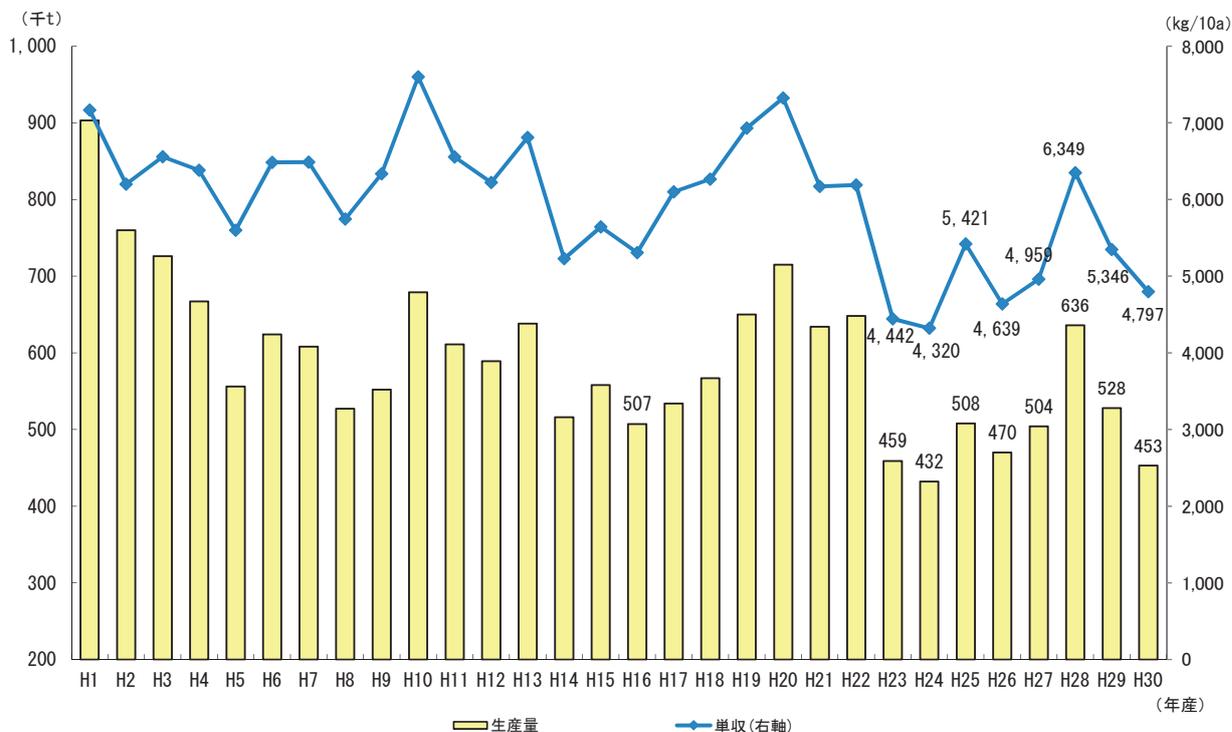
## 3. 平成30年産さとうきびの生産実績

### (1) 県全体

収穫面積は9436ヘクタール（前年比96%）、生産量は45万2623トン（同86%）、10アール当たり収量は4797キログラム（平年比97%）となり、収穫面積、生産量、10アール当たり収量ともに、増産計画の目標（平成30年産）を下回った（図1）。

なお、生産量の99%（44万7178トン）は、分みつ糖原料用として6社7工場で集荷されている。

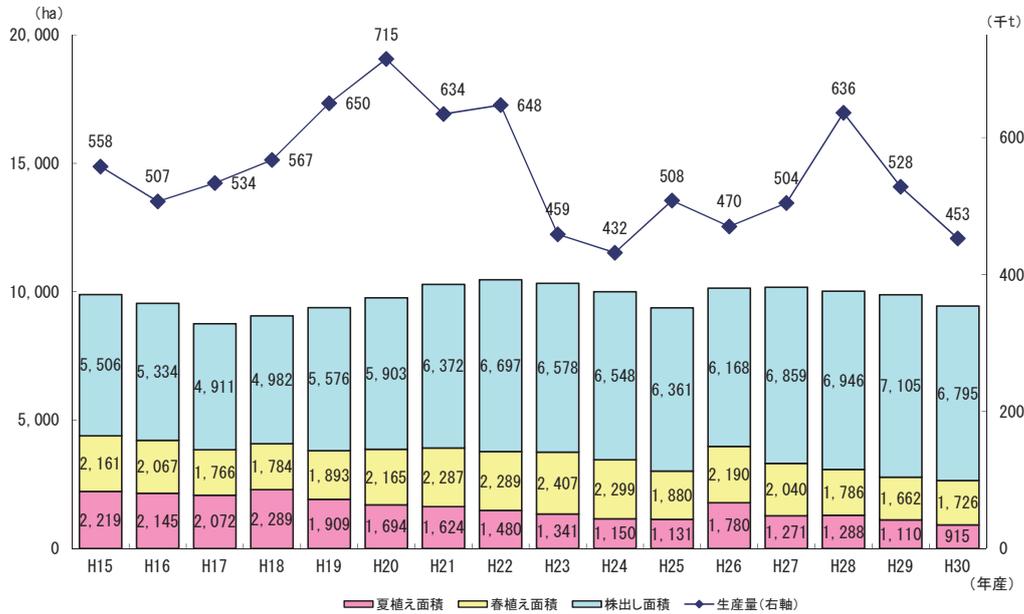
図1 さとうきびの単収と生産量の推移



栽培型別の収穫面積は、株出しが6795ヘクタール（構成比72%）、春植えが1726ヘクタール（同

18%）、夏植えが915ヘクタール（同10%）であった（図2）。

図2 栽培型別の面積と生産量の推移



品種別の収穫面積は、農林8号が32%を占め、次いで農林23号の19%、農林22号の13%、農林17号の2%の順であった。16年産で約7割を占め

ていた農林8号の比率が年々低下し、各地域の気象条件などに適した新たな品種への移行が進みつつある（図3）。

図3 品種別面積割合の推移

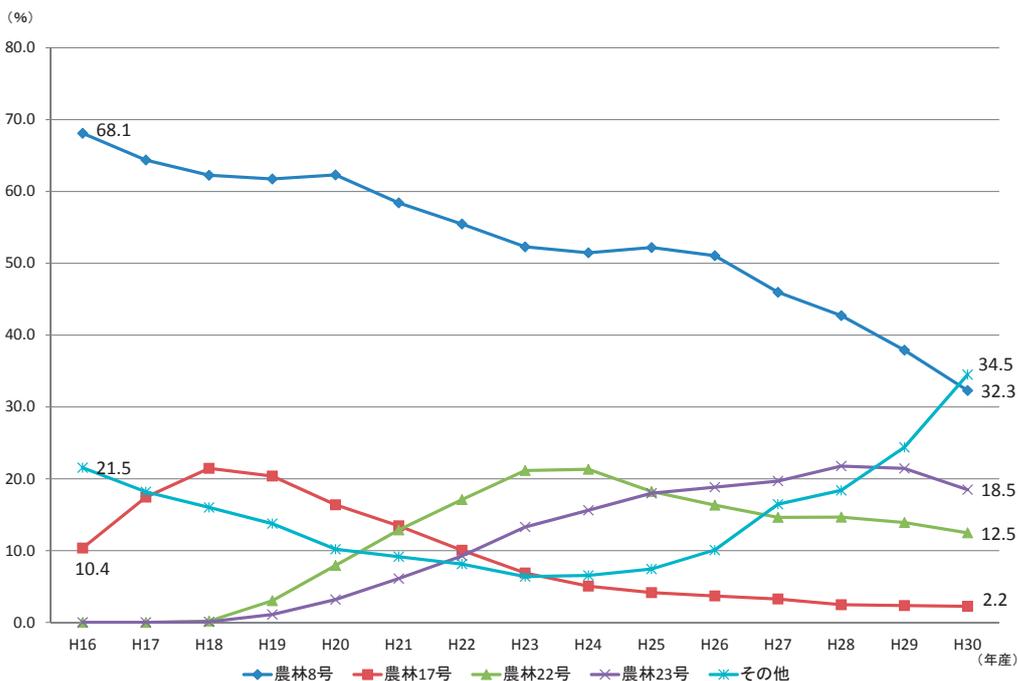


表2 主な奨励品種の特徴（鹿児島県）

品種名	選定年度	特徴
農林8号	H2	多収、早期高糖、株出し萌芽が良い
農林17号	H13	株出し多収、耐倒伏性強
農林22号	H17	多収、早期高糖、風折抵抗性強
農林23号	H17	多収、高糖、干ばつ条件下でも生育が良い（奄美地域）
農林27号	H28	夏植え多収、高糖（奄美地域）

## （2）各島の状況

### ア 種子島（西之表市、中種子町、南種子町）

収穫面積は2187ヘクタール（前年比95%）で、生産量は11万4954トン（同99%）となり、10アール当たり収量は5256キログラム（平年比92%）であった。

株出し比率は67%で、品種別では、農林8号が55%、農林18号が27%、農林22号が16%を占める。

### イ 奄美大島（奄美市、宇検村、瀬戸内町、龍郷町）

収穫面積は599ヘクタール（前年比100%）、生産量は2万3398トン（同78%）で、10アール当たり収量は3903キログラム（平年比100%）であった。

株出し比率は73%で、品種別では、農林22号が21%、農林23号が19%、農林17号が14%を占める。

### ウ 喜界島（喜界町）

収穫面積は1315ヘクタール（前年比92%）、生産量は6万1691トン（同77%）となり、10アール当たり収量は4690キログラム（平年比88%）であった。

株出し比率が71%を占める一方、夏植えの比率も18%と高い。品種別では、農林23号が30%、農林8号が15%を占める。

### エ 徳之島（徳之島町、天城町、伊仙町）

収穫面積は3359ヘクタール（前年比97%）で、県全体の36%を占め、島別では最も多い。生産量は14万6648トン（同76%）となり、10アール当たり収量は4366キログラム（平年比97%）であった。

株出し比率は75%で、品種別では、農林8号が29%、農林23号が27%を占める。

### オ 沖永良部島（和泊町、知名町）

収穫面積は1565ヘクタール（前年比94%）、生産量は8万1536トン（同96%）で、10アール当たり収量は5211キログラム（平年比110%）であった。

株出し比率は71%を占める一方、夏植えの比率も19%と高い。品種別では、農林8号が39%、農林22号が35%を占める。

### カ 与論島（与論町）

収穫面積は411ヘクタール（前年比97%）、生産量は2万4396トン（同103%）で、10アール当たり収量は5938キログラム（平年比115%）であった。

株出し比率は81%を占め、島別では最も高い。品種別では、農林23号が65%を占める。

表3 島別の生産実績（平成30年産）

地域	収穫面積 (ha)	生産量 (t)	10a当たり 収量 (kg)	平年比 (%)
種子島地域	2,187	114,954	5,256	92
奄美地域	7,249	337,669	4,658	99
奄美大島	599	23,398	3,903	100
喜界島	1,315	61,691	4,690	88
徳之島	3,359	146,648	4,366	97
沖永良部島	1,565	81,536	5,211	110
与論島	411	24,396	5,938	115
県計	9,436	452,623	4,797	97
【参考】 過去最低	8,718 (H9)	431,874 (H24)	4,320 (H24)	—

資料：鹿児島県調べ

注：平年値は過去7年（H23～29）の中庸5年の平均値。

### （3）ハーベスタによる収穫の状況

さとうきびの労働時間の約3割を占める収穫作業の省力化を図るため、国庫補助事業などを活用してハーベスタの導入が進められている。

また、県では平成23年度から、低コストで持続的な生産体制の確立を図るため、耐用年数を経過したハーベスタの長寿命化措置（機能向上）に向けた事業を実施しており、30年度までに52台の機能向上を支援した。

この結果、30年産では、収穫面積全体の93.8%、約8851ヘクタールでハーベスタ収穫が行われており、島別に見ると、沖永良部島では最も高い98.2%となっている。

## 4. 製糖工場の操業状況

分みつ糖製造は、1島1社の体制となっており、6島6社（7工場）が操業している。

分みつ糖工場における平成30/31年期の原料処理量は44万7178トンで、前年から7万4745トン減少した。平均買入糖度は13.08度で、前年から0.69度高くなったものの、産糖量は5万1127トンと前年を4878トン下回った（表4）。

表4 製糖工場ごとの操業実績

島名	会社/工場名		操業期間	原料処理実績							
			操業開始	H30				増減 (H30-H29, H30/H29)			
			操業終了	原料処理量 (t)	歩留 (%)	産糖量 (t)	買入糖度 (度)	原料処理量	歩留 (p)	産糖量	買入糖度 (度)
種子島	新光糖業	中種子	12/17 4/13	114,583	10.81	12,386	12.40	▲1,754t 98%	1.55	1,608t 115%	1.38
奄美大島	富国製糖	奄美	1/9 4/3	20,998	11.98	2,516	14.51	▲6,337t 77%	0.33	▲668t 79%	0.83
喜界島	生和糖業	喜界	12/10 3/17	61,068	11.45	6,995	13.33	▲18,769t 76%	1.16	▲1,219t 85%	1.14
徳之島	南西糖業	伊仙	12/20 4/4	73,762	11.73	8,649	12.93	▲22,533t 77%	0.47	▲2,192t 80%	0.38
		徳和瀬	12/20 4/3	70,862	11.82	8,374	12.85	▲22,558t 76%	0.49	▲2,214t 79%	0.43
		計	—	144,624	11.77	17,023	12.89	▲45,091t 76%	0.47	▲4,406t 79%	0.40
沖永良部	南栄糖業	和泊	12/10 4/20	81,509	11.95	9,740	13.66	▲3,465t 96%	0.29	▲165t 98%	0.08
与論島	与論島製糖	与論	12/15 4/7	24,396	10.11	2,467	13.45	671t 103%	▲0.41	▲29t 99%	0.32
奄美地域計			—	332,595	11.65	38,741	13.31	▲72,991t 82%	0.50	▲6,487t 86%	0.53
県計			—	447,178	11.43	51,127	13.08	▲74,745t 86%	0.70	▲4,878t 91%	0.69

資料：日本甘蔗糖工業会調べ

注：富国製糖は、別に1601トンの原料を含みつ糖用に圧搾し、219トンの含みつ糖を製造している。

## おわりに

鹿児島県では、関係機関・団体と一丸となり、各種補助事業などを活用して、収穫面積の確保や土づくりなどの基本技術の励行などによる単収向上対策を推進するとともに、農業機械の導入、製糖関連施設の整備などへの支援などの取り組みを積極的に推進しているところである。

今後とも、さとうきび生産農家の経営安定と、製糖会社等関連産業の維持発展を図るため、増産計画で定めた平成37年産の目標達成に向け、大規模経

営体・農作業受託組織等担い手の育成や、農業共済制度への加入促進による「経営基盤の強化」、機械化一貫体系の普及・確立や地力増進による「生産基盤の強化」、病虫害防除対策および鳥獣被害対策の推進や優良品種の育成・普及による「技術対策」などに取り組むこととしている。

また、分みつ糖工場の働き方改革については、労働基準法の上限規制の適用猶予期間（5年間）内での長時間労働の是正を図ることとしており、人材の確保や省力化設備・施設の整備に向けた取り組みを実施することとしている。